

氏名 新 見 道 夫

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 1059 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和54年12月31日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者
(学位規則第5条第2項該当)学 位 論 文 題 目 Cortical projections of the anterior thalamic nuclei in
the cat
(ネコにおける視床前核の皮質投射)

論 文 審 査 委 員 教授 大内 弘 教授 大塚 長康 教授 西本 詮

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

ネコの視床前核の皮質投射を研究するために、前核の各部に定位的に小さい傷を作り、それによって引き起こされた内側面皮質（辺縁皮質）における終末変性をNauta—Gygax 法およびFink—Heimer 法を用いて検索した。背側前核は膨大後野、海馬台後野および海馬台前野に投射する。この投射には背腹側の方向に局在性があるものと思われる。この核からの線維は後辺縁皮質の主として第1層、第3層および第2層の深部に分布する。腹側前核は帯状野および膨大後野、海馬台後野、海馬台前野などの一部に線維を送る。この投射には前後の方向および内外側の方向に局在性があるものと考えられる。腹側前核からの線維は主として後辺縁皮質の第4層、第3層および第1層浅部に分布する。内側前核は前辺縁野および帯状野、膨大後野、海馬台後野および海馬台前野に細い散在性の線維を送り、この投射には背腹側の方向に局在性があるものと思われる。内側前核からの線維は主として前および後辺縁皮質の第5層および第6層に分布する。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はネコを用いて、視床前核各部の皮質投射を変性軸索鍍銀法によって研究し、とくにこの投射の局在性を明らかにしたものであるが、情動回路の一部をなすこの重要な経路について重要な知見を得たものであって、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。